

炭坑大罷業事情

ロズバーク
日本人
收容所
知事局
五月三日
日曜日
第二二三号

枢軸は祝賀し聯合會を
明日から十五日間の休戦

國際通信に據ればロズバーク直屬五州の
坑夫の外四州合計九州の罷業となり
昨日羅は華府に於てロズバーク全
權の終日の協議あり昨夜八時大統
領の対エニオン訓辭放送あり今朝は
ロズバーク更に紐育に於て明日より数
へて向う十五日間の休戦問題と提
出し會員の承諾を得たが一方イワケ全
權は各坑区三千四百五十個所に支々
警備隊を配置して保安に努めて
居るといふ枢軸側は敵國の自壞
作用と觀て祝賀して居り聯合會
側は殊々外この成り行を憂慮して
なる

石炭節約三割五歩令

鐵道旅行は遠慮の事
華府三日UP電(全米の炭鉱夫が同

盟罷業を執行する場合軍事工場
需用充實を欠く事になるので内務長官
イワケは緊急布告を發し鐵道に依る
旅客は此の際旅行を差控えて欲しい之に
より三割五分の石炭と軍事工場へ輸
通する事が出来ると述べて旅行客に
衝動を與へた

特別講演(人種と血液)

来る五月五日(水)午後七時半より
第二大隊宗教堂に於て西大隊教
師聯盟主催の人種と血液なる
題下に毛利医学博士の講演を
依頼する事と決定し周好有志諸
氏の來聽を希望す
尚右會堂には懸掛不充分に
付各自懸掛の巾持参を請ふ

ラバル首相負傷説

四月三十日倫敦新聞によらば
首相は本夕刺客の手榴弾で負傷
したが巴里の一ホテルにてヒトラー、ムッソリ
ニ及ケリング將軍等と秘密會談
よりの歸途であつたと報じられてゐる

ソコモンで米軍活躍

華府三日発エニオン電によれば米軍

爆撃機隊は本日ソコモン群島内日本
軍基地カヒリ、ゲーター、ベルリ及ヒン
等を攻撃すワカナル島に於て日本の發
備隊九名が他の島へ逃れんとするを發
見し撃退したと

日本語講演

米國の宣教師として多年日本に在留
し神戸學院教授ケイツマン師は
明日東京午前午後一時半より第十
中隊社交室にて日本語講演を行
ふと

コースバーク柳壇

課題 沙漠の夏
一人三句五月十日ノ切

ロズバーク時報社選

初心者習作を歓迎す

第二回リーグ戦と蹟

第九寮 対 第五寮 十五対一
十一寮 対 六寮 六対四
十寮 対 十二寮 六対三

新約聖書概論第三篇出版

録江孝牧師新著新約聖書概論第
二篇(第一部)パウロの手紙以外の書簡天
學出版した聖書研究者の手紙とくに格好
である註文希望者は神原(六中)氏まで

知事局より

四月二十日總選挙の結果第三大隊
知事局人員が左の通り決定

知事 吉任保政
副知事 藤井七太郎
書記 梶野武徳

會計 吉田 追
佐伯鶴松

郵便局長 藤井七太郎
副郵便局長 清水延吉

検閲 係 東谷根二郎
清水幸二

厚生部長 揚村正実
森田卓立

作業部長 武田左文司
三原源 治

供給部長 大久保善四郎
赤 塚 最

運動部長 赤 塚 最
情報部長 赤 塚 最

医務部長 赤 塚 最
キヤンラン 赤 塚 最

木工場長 赤 塚 最
靴工場長 赤 塚 最

○放馬

今朝十一時十五分Cの茶
の馬車馬三頭取者無しに走り出し
たが第二大隊ゲートで止る損害なし

1 ヌ夕日報の筆禍事件

エ夕州のトレーキ市で発行する日本
字新聞が去る四月十八日掲載したその
社説に於て我が西部防衛司令官
テウイット中將を侮辱嘲笑せる
ものであると米國教育協会常
務理事オレシナリは烈火の如く憤
慨して之れが調査方を軍部司に
申し込んだレシナリ理事の説明に
よればテウイット將軍に対し無
禮千萬な論評を加へた日本字新
聞はエ夕州で発行するエ夕日報で
ある副紙は先頃桑港市で開催
された教育家の年会の席上に於て
テ將軍の発表した日本人が西部
沿岸へ復帰する事を反對した意
見に向つてエ夕日報は揶揄嘲笑的
言辭を以つて冷評して居る然かも
此の新聞は各センターに多数の読
者を有して居るので同所の第二世日
本人を煽動するに西部沿岸防衛司
令官の嘲笑を以つたものである即
ちその社説の一節に第二世日本人に對
し大統領陸軍長官又は米國內の
重なる雜誌はその立場を理解支持
して賞讃して居るに拘らずテ將軍が
排斥的言辭を以つて日本人の復歸に

反對するとは甚だ不可解である況ん
第二世日本人は豈々たる米國人である
と米國將軍の注意を喚起したい云々
此の社説は確に第二世日本人をして我
米國の指導者を誤謬さすべく作意
的に書かれセンター内の読者を煽動
するに効果的のものである我が軍部
司は第九軍司令官を侮辱嘲笑し
センターの第二世を煽情せんとする此
の新聞を速かに調査し明して貰いた
いとレシナリ理事は意氣込んで居る
因に日本人が西部沿岸を急遽退
くとき第二世日本人は精神誠意西
部沿岸防衛司令官に協力して之
退を援助したものであつた。

平和提唱と戦後の

平和提唱
奉府(五月一日電AP)元ブラジルベルチ
ム駐劄米國大使エツケギブソンは本
夕第十七回國際法研究會年會
の席上で我米國は現大戰を出来る
だけ早く中止し平和會議を開く可
きであるとの意見を發表したの對し
ロバート大審院判事は戦争は絶えず
べきである然し我が聯合側は殊に米國
戦後の國際政策又國內として思想的
大變動に具へる可之れが基礎方針を

直ちに作つて置く可きであると述べた。

○農園 だより

三十日ユニミエニイカテンより初の收穫
として赤大根三ラツ(時價約九弗)がた
たれた個中隊スホル及び病院に分
配一同に喜ばれた。

○第三大隊治療所

自五四年三月廿九日 迄の新患者表
至令 年四月廿七日

喘息及痺麻痺(フレイバー)	六
コイマチムス及關節炎	五〇
痛環器系統 痔核(二) 血圧亢進症(五)	三六
心臓疾患(二)	四二
消化器系統 胃腸障碍(五)	五
糖尿(八)	一三
泌尿器系統 氣管支炎(二)	二二
呼吸器系統 イノエチ(三)	二〇
神全系統 神全衰弱	四八
眼科耳鼻咽喉科系統(二六)	三八
外科的疾患 トラホーム(一六)	七三
皮膚病(三九) 梅毒(九)	七二
バイタイン障害	八〇
合計	八〇四

○朗通漢俳壇 蝶(三)

澄水のみに親む蝶々かな 緑苔
樹々と白蝶渡る砂の波 月鑑
まじく風過きて蝶々の静けさよ 江雨
恋をする胡蝶もあり風軟かし 許春
蝶白く柵を踏んで消え行く如 冬雁
今朝果てし漢習跡も蝶々舞ふ 冬雁
蝶舞はは鏡柵を感しなし 牧人
雨晴れて庭に胡蝶の翅ひ哉 一首
蝶北合の柵を越え行く番八蝶 一人
病友の蝶に誇は北庭歩るや 予冬
ちちまおに屋振を越えたる蝶つ 玄柳
花摘みて蝶に戯むる心かり 照輝

朗通漢俳壇吟句募集

課題 夏めく 苺 各三句
締切 六日 本社編輯局宛

○忘れ物

昨日五中隊社交室
に夏帽子の忘れ物あり五中隊七寮吉
生氏 保管中

○お願い

十中隊事務所用の
紙綴器が此の二週間未見えなくなら
た由で若し右使用中の方があれば至急
お送り下さい。

マタイ傳使的研究 石川牧師
月本木夕七時半 於宗教堂